

将来の下水道サービスに つなげる広報

～北谷町公共下水道供用開始 50 周年事業～

北谷町 上下水道部 上下水道課 経理係

遠藤 俊太郎



1 北谷町について

ちやたん
北谷町は沖縄本島中部の西海岸、県庁所在地である那覇市からおおよそ 16km の距離に位置しており、町域の約半分が嘉手納基地をはじめとした米軍施設によって占められています。本町ではこれまで米軍施設の返還跡地の整備や、公共水域の埋め立てによって、「ハンビー地区」や「美浜アメリカンビレッジ」「北谷町フィッシャリーナ地区」など、賑わいのあるまちづくりが進められ、商業施設や大型宿泊施設が集積した「アメリカ」の雰囲気も感じられる都市型リゾート地として、県内外から脚光を浴びる観光地の一つとなっております（写真－1、2）。

また、美浜アメリカンビレッジ地区内に整備されたビーチや海岸沿いの遊歩道は、空をオレンジ色に染めながら水平線に沈みゆく美しい夕陽が見られる人気の絶景スポットとなっているほか、宮城海岸はサーフィンやダイビングに絶好のスポットとして全国的に有名で、多くの人がマリンスポーツを楽しんでいます。



写真－1 北谷町西海岸地区



写真－2 サンセットビーチの夕陽

2 北谷町の下水道事業概要

本町の公共下水道は、全延長が分流式の流域関連下水道となっており、沖縄本土復帰の前年、昭和46年8月24日に当時の北谷村字浜川の一部(0.492ha)を処理区域として供用を開始し、昨年50周年を迎えました。当時の工事写真(写真-3)を見ると、未舗装の道路を開削し、下水道管を設置しているようすが確認できます。(ちなみに、初の下水道工事の請負契約は復帰前でしたので、ドルで交わされておりました。)

町域の米軍施設の返還や公共水域の埋立てに伴う急速なまちの発展とともに下水道の整備が進められ、令和3年度末現在における人口普及率は98.7%、接続率は97.6%と高い水準を実現しております。使用人口は開始翌年度の昭和47年度末の350人から令和3年度末の2万7,852人へ約80倍に、年間排水量は約1万7,500m³から約560万m³へ約320倍に拡大しました。

これまで「整備」と「接続促進」を主として事業が進められてきた北谷町の下水道事業ですが、供用開始から50年経った今、転換期を迎えております。桑江伊平地区における区画整理事業の完了も目前であり、新たな下水道の整備も一段落となりました。下水道への接続率も近年は高止まりしており、重点項目ではなくなりつつあります。

一方、新たに課題となっているのは「施設更新」

と「維持管理」「安定した経営」です。これまで整備してきた下水道管やポンプ施設といった下水道施設が老朽化しており、計画的に「施設更新」していく必要があります。また、飲食店や大型宿泊施設が増えたことで、その排水に由来する油分などにより、下水道管が「詰まり」を起こすケースが見受けられます。その予防や解消、適正利用喚起等の下水道広報活動など、「維持管理」をしっかりと行っていかなければなりません。

これらの事業をしっかりと継続していくため、平成29年4月に地方公営企業法を全部適用し、公営企業会計に移行しました。経営状況を常に注視し、令和元年7月には料金改定を行ったほか、経営戦略等の経営計画の更新を行っており、「安定した経営」の維持に注力しております。

3 50周年記念事業の取組み

先述のとおり、令和3年8月に本町の公共下水道が供用開始から50周年を迎えました。下水道管の法定耐用年数が50年となっていることもあり、今回の「50周年」という節目は広報イベントを打つタイミングとしては最適だと考え、さまざまな取組みを行いました。その主なものを四つ、以下にご紹介いたします。

一つ目は「記念マンホール蓋の設置」です(写真-4)。記念マンホール蓋は「パッチワーク柄(色違いで2種)」と「下水道管柄(色違いで3種)」

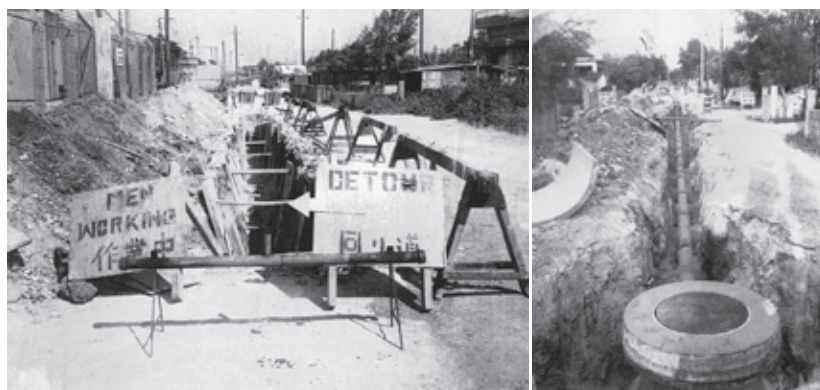


写真-3 下水道整備のようす(1971年)